

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 1 日

所 属： 獣医 学部 獣医 学科

氏 名： 根尾 櫻子 職位： 講師

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5 行（80 字～200 字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

学生さんが、各学年で習得すべき必要な基本的な知識（国家試験レベル）に加えて、卒業後に活用・応用できる知識を身につけることに責任を持って授業を行なっている。

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
獣医総合臨床実習 （小動物内科）	獣医・獣医	必	5	144
小動物臨床実習	獣医・獣医	必	5	144
小動物病院実習	獣医・獣医	選	6	16
臨床病理	獣医・獣医	必	4	136
小動物獣医総合臨床 （I～IV）	獣医・獣医	必	5	148
総合獣医学	獣医・獣医	必	6	152
卒業論文	獣医・獣医	必	4-6	10
獣医学特論	獣医・獣医	必	4-6	10

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの）（分量の目安：8～12 行（320 字～480 字））

【教育理念】

- ① 学生が主体的に問題を解決し、また、疑問を同級生や教員と協力して最適な方法を自らみつけて解決する方法を学べる教育。
- ② 将来、限られた情報や時間で疑問解決を導くことを指導する効率的な授業。
- ③ 学習を定着させ、将来に向けての学修を実施することで、卒業後の社会でも不安なく問題を解決する方法を身につける授業。

【教育理念を遂行するための自分の教育アプローチ】

獣医学部での教育を受けた後、学生は、小動物や産業動物臨床、公務員、製薬企業、研究職など様々な分野に進んでいく。どの分野においても常に解決をしなければならない問題や疑問は発生する。その際には学生時代に培った問題解決能力が重要である。将来的に問題解決ができる能力をつけるために、学生時代にまず、個々で問題を解決する解決法を、筋道を立てて考え、周囲の同級生や教員とアイデアを出し合いながら最適な方法を見つけることを達成できるように教育する。また、限られた情報や時間を効率的に活用して問題の解決ができるような方法も指導する。さらに、卒業後、新しい社会で困難を感じた時にも不安を和らげられるように、学習を定着させること、また、困った時には仲間や大学の教員に相談することも解決策であることを教える授業を遂行する。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

【教育の目的】

将来獣医師免許を持った際に、不安なく活動できるように必要な知識と問題解決能力を持てるようにする。

【教育目標】

学生が卒業後に獣医師として社会で通用する能力を身につけること。国際的に通用するレベルの教育を行うこと。

【教育内容】

基本的な知識を身につけさせることとその応用力が持てるような協力を志している。また、アドバンス教育では、アメリカの獣医学教育の中で、3年間の専門医教育トレーニングを受けた自身の経験をもとに、国内においても、10年進んでいると言われている欧米の獣医学教育と同等の教育を行うことを目標として常に教育を行なっている。獣医師にも専門があるように、学生にも得意な科目、不得意な科目がある。不得意な科目である場合にはそれを仲間と協力することで克服していくことを教えている。また、将来仕事をする上で大切なことは、もちろん自分自身の能力を高めることもあるが、それ以上に、その時々の問題点（例：重症例の診察、治療など）が解決できることであり、それを行うためには、学生が、自分の力だけでなく、相手の意見を受け入れ、協力して問題解決に取り組む

めるように気にかけている。

アクティブラーニングについての取組

特に、5年生の小動物臨床実習（参加型臨床実習）、また、6年生の小動物病院実習（臨床病理）では、血液、骨髄、細胞診のスライドを学生さんに通常は顕微鏡で、今年度はwebで配信した標本の写真を用いてまず診断をしてもらう。診断を進める上では、学生同士で積極的に意見交換をすること、また資料を活用することを推奨している。自分たちの力で解決ができるところまで解決し、またその解決に至るまでに協力をするを学んでもらう。そうすることで、将来的に動物の診療のみならず、何らかの問題を解決しなければいけない際の問題解決能力を育成できると考えている。学生間で診断（問題解決）を行ったのち、参加型臨床実習では、教員1：学生6人、また小動物病院実習では教員1：学生2-3人でディスカッションを行い、どの様にしてその診断に至ったか、説明してもらい、教員側としては解説を交えながら、また学生には積極的に質問をしてもらい、彼らの疑問を解決しながら最終診断に至るまで、段階的に教えることを心がけている。

ICTの教育への活用

今年度の授業は対面形式に戻ったが、授業を録画し、それを公開することで復習に用いることができるようにした。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C） B

②学生の理解度の把握（A～C） B

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C） B

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C） A

⑤双方向授業への工夫（A～C） B

臨床病理や小動物総合獣医学などの授業では、授業中に国家試験で出題されていたところは、国試に出題されたところだから特に重要です、と授業の中で伝えた。5年生の参加型臨床実習では、顕微鏡を使った細胞診の実習で、実際に学生が診断をするという実習を行うが、それを解説する中で、国家試験に出題された問題を提示しながら、国家試験を受けるにあたり、知っておくべき細胞の見方を教えた。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。）

国家試験対策の授業である総合獣医学では随時過去問題を提示してその解き方とポイントを教えた。

5.学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

現在コーディネーターを務める臨床病理では、毎年、第1回目の授業で学生さんに授業評価を公表し、対策を示す。学生さんに対しては、授業でわからない所があれば質問をしてください、と毎回伝える。臨床病理に関しては教員に対して理解しやすい授業を試みてくださると数年前（前コーディネーターからの試みであるため10年くらい経つのかも）よりお願いしてきた。

②①の結果はどうでしたか。

数年前と比較すると全体的にはわかりやすくなっていると思うが、依然として難しい教科であり、また、まとまった、よい教科書がないことがおそらく原因して理解度が深まらないのではないかと感じている。

③②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

担当各教員により、各授業の授業内に問題を織り交ぜ、それを解説する形式で学生の授業理解度を確認する方法を試みる予定である。

6.学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)

各授業の中で、各ポイントをある程度把握することが重要であると思われるため、教員には、各授業のポイントをまとめたスライドを入れるようお願いした。また、授業の中で小問題の提示および解説を行い、学生の理解度を測るという取り組みをする予定である。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

参加方臨床実習に関しては、一つ一つの症例に関して詳しく聞いて良かったという感想をもらった。卒業研究に関しては、受け持った6年生の3人すべて、学外の学会で発表することができた。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況) (分量の目安: 1~2 行 (40 字~80 字))

FD 研究会には、外部との外せない会議と重ならない場合は出席し、出席できない場合は、録音されたものを聞かせていただいた。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。(分量の目安: 3~6 行 (120 字~240 字))

短期目標

授業評価で、学生さんが授業を楽しめた!理解できた!との反応を得ることを目標とした。

長期目標

卒業後に麻布大学で学んで良かった!と思ってもらう。さらに我々の行なっている臨床教育を受けた学生が獣医師として麻布大学動物病院に戻り、麻布大学動物病院がより発展すること、さらに麻布大学で学べば国際レベルの獣医師となれるようにすること。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

1. 授業に関するもの

シラバス, 小テスト, レポート課題, 試験問題, 教材 (配布資料, パワーポイント資料など)

2. 教育改善に関するもの

(FD プログラム参加, 複数年のシラバス)

3. 学生から

授業評価データ, 授業に関するコメント

4. 指導学生の学会発表, 学生の進路選択への影響

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

(「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」(大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編)から引用)

(自ら作成するもの)

1. 授業に関するもの

シラバス, 小テスト, 宿題, レポート課題, 試験問題, 教材(配布資料, パワーポイント資料など)

2. 教育改善に関するもの

(教育に直接貢献する研究, FD プログラムなどへの参加記録, 教育の工夫を示すもの(複数年のシラバス等), 教育活動関連の補助金の獲得)

(他者から提供されるもの)

1. 学生から

授業評価データ, 授業に関するコメント(授業評価の自由記述やメールのやりとり等), 卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評, 作成教材についての意見, 同僚のサポート実績

3. 大学/学会等から

教育に関する表彰, 教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類, カリキュラムやコースの設計などについての評価

(教育/学習の成果)

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化, 学生の小論文・報告書, 学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例, 特に優秀な学生についての記録, 指導学生の学会発表などの成果, 学生の進路選択への影響についての事実, 学生のレポートの改善の軌跡